

第3回 円山川流域委員会 議事録（概要版）

会議の概要

日 時： 平成15年7月3日（木）13時00分から17時30分
場 所： 円山川防災センター研修室（日高町）

1. 開 会

庶務担当の㈱東京建設コンサルタントが議事進行を行った。

2. 委員長挨拶

円山川流域委員会委員長 藤田 裕一郎（岐阜大学 流域圏科学研究センター教授）が挨拶を行った。

3. 議事内容

- 3.1 報告
- 3.2 流域の概要について
- 3.3 現地視察の選定とルート確認
- 3.4 現地視察 大臣直轄区間上流域(日高・出石方面)
- 3.5 第4回流域委員会の進め方について
- 3.6 その他

4. 審議内容および決定事項

4.1 報告

- ・第2回円山川流域委員会の審議決定事項について庶務より以下のことが報告された。
 - 1) アンケート結果の取り扱いについては、今後の委員会においてもアンケート等により原則公開として意見聴取を実施する。ただし、アンケート実施の際には、使用目的等の意図を明確にする。
 - 2) 流域委員会の今後の進め方については、今年度の流域委員会は、現状の認識、情報の共有化を重点的に行い、適宜、河川管理者に従来の整備方針等についても情報提供を求めていく。
 - 3) 現地視察については、以下の事が報告された。
 - 第3回および第4回流域委員会では現地視察を実施する。
 - 現地視察ルート等は、庶務が再度検討して、委員に事前に配布して了承を得る。
 - 現地視察当日は、視察を行う前に1時間程度会議を開いて、流域や視察ポイントの説明を行う。
 - 4) 第2回円山川流域委員会以降の公表資料について説明がなされた。

4.2 流域の概要について

- ・庶務より円山川の流域の概要について円山川流域図、地盤高図、縦横断図を用いて説明された。また、松田委員より、巨樹 円山川について説明が行われた。
 - <主な意見>
 - 1) 流域の86%が山地であり、人工林が60%を占めている。近年では、過疎による労働力不足により手入れが滞っている状況である。山地の間伐を行い、活力のある山に戻して、良い水を下流に流していくことが、これからの課題ではないか。(松田委員)
 - 2) 松田委員より提供された資料に、過去の洪水実績のある場所を10年毎ぐらいに図示することはできないか。(上田委員)
 - 3) 円山川の特徴について、流域面積はほぼ同じだが幹川長が倍以上と細長い流域形状の大井川と比較すると、円山川流域では洪水が一気に下流区間に集中してくるとの説明があった。(垣田委員)
- ・河川管理者より、今後の委員会において次の意向が伝えられた。
 - 1) 上流部の兵庫県管理区間における事業計画については、現在行っている兵庫県との調整を踏まえて、今後の委員会で説明していきたい。

- 2) 直轄区間の従来の河川計画や河川整備の状況は、治水・利水・環境等の分野について今後の委員会で詳しく説明していきたい。
- 3) 現地視察を行うにあたり、河川管理者として見てもらいたい地点をルートに追加し、現地にて説明させていただきたい。

4.3 現地視察の選定とルート確認

- ・ 現地視察の選定とルート確認については、以下のことが了承された。

・ 現地視察ルートの選定に関して、次の4点を候補箇所とすること、時間等の物理的制約条件を考慮して選定した結果およびルートについて、委員長より委員に確認がなされ、河川管理者の推薦する地点も含めて現地視察を行うことについて特に異論はなく了承された。

委員が他の委員に見て貰いたい地点

各委員が関心を持っている地点。

庶務として、河川整備を考える上で、委員に見て貰いたい地点

河川管理者の推薦箇所

・ 以上により、現地視察箇所として河川管理者から下記の5地点の推薦を受け、重複箇所を除いて追加した。 円山川防災ステーション、野々庄～府市場、江原～浅倉・赤崎地区、出石川直轄上流端、小野川放水路

- ・ 委員各自が現地視察を行うための現地視察地点に関するマップについては、庶務により作成中の原案が示され、原案に沿って作成することが了承された。また、7月中旬までに委員からの要望箇所があれば追加することが了承された。また、県管理区間の上流部についても同様のマップを今後作成していくことが了承された。

4.4 現地視察

- ・ 情報の共有化および流域の現状の把握を目的として、上記の審議結果に基づき現地視察を実施した。視察した地点は以下の通りである。
- ・ 円山川防災ステーション、野々庄～府市場、上ノ郷河畔林、浅倉・赤崎地区、蓼川井堰、出石川直轄上流端・谷山川放水路、六方川内水対策(小野川放水路)、新田井堰、土淵より上流、八代水門・排水機場

<主な意見や質問>

- ・ 桜つつみ等の植樹を行う場合には、大量の土を用いて、小さな木を植えることが望ましい。(菅村委員)
- ・ 天端幅の設定には、流量等の基準があるのか。(岡本委員)
- ・ 過去の実績最大流量はどのくらいの規模か教えて欲しい。(有本委員)
- ・ 現状の堤防の平面的な位置は、昔の堤防の位置と変わっているのか。(前田委員)
- ・ 植樹されているのは、桜の木、あじさいが多いが、その根拠は何か教えて欲しい。(前田委員)
- ・ 上ノ郷付近の河床高が1.5mぐらい低下していると聞いているが、河床の経年変化はどのようになっているのか。(前田委員)
- ・ 昔は、上流に降った雨が8時間ぐらいかけて下流に流れてくると聞いたことがあるが、現在は、どの程度の時間をかけて流れてくるのか。(一般参加者)
- ・ 蓼川井堰ができるまでは下流の用水はどのように賄われていたのか。(前田委員)
- ・ 六方水門の所では、改修時における本川との合流点における六方川の付け替えと六方水門、六方排水機場および八代水門等を作らざるを得なくなった因果関係を説明していただきたい。(山口委員)

以上のうち、質問事項については、現地でも簡単な説明がなされたが、今後、できる限り、資料等に基づいて明確に説明していきたいとの回答が河川管理者からあった。

4.5 第4回流域委員会の進め方について

- ・ 第4回流域委員会の進め方については以下の通りである。

- ・ 第4回流域委員会は、第3回流域委員会と同じく、事前に説明等の会議を行った後に直轄下流域の現地視察を行う。
- ・ 現地視察箇所は、第3回流域委員会と同様に、委員長及び庶務でアンケート結果、河川管理者からの推薦箇所等を踏まえて検討し、委員に事前に配布し、了承を得るものとする。
- ・ 現地視察における説明は、今回と同様に前回のアンケート結果より、委員の中から説明者を募る形式をとるものとする。

<主な意見>

- ・視察方法について下流域の場合は、舟で視察を行った方がより良く視察ができると思われるが如何なものか。(木之瀬委員)
- ・庶務から、第4回には無理であるが、可能な限り実施できるよう検討したいとの回答があった。

4.6 その他

- ・第3回委員会の開催に際して、地域住民の方から、ゴミの無いきれいな円山川にしていきたい旨の意見を書面にて頂いていることが報告された。